

「羽包み（はくくみ）」

第21号 令和4年12月1日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

次代に生きた証を

ホーム長 前川 礼彦

この世の務めに、徳を積むことがあるのなら、この世は何層にも分かれていって、近い領域の徳を持ち合わせた人々が集まるのだろうか。

類は友を呼ぶ。気の合った者や似通った者が、自然と寄り集まるという意味であるが、人のために生きることが自らの喜びや徳を積むことに繋がるのなら、きっとそれはその徳を求めて集まるからなのかもしれない。

どういう生き方をするかは、その年代によって変わってくる。意欲を込めたものが、そうでなくなり、心の声は意欲を見出さず、彷徨うこともある。興味関心があれば、そこを目指して歩めば良いが、興味関心を無くしたとき、人はどう生きれば良いか。意欲が出るまで、ただ生きれば良いのか。

一方、人生は楽しむために与えられた時間とも言われる。楽しむとはその瞬間のみ味わえる心地良さの連続体である。心地よさのみを求めては、時に間違った方向へ歩んでしまうかもしれないが、人生の意味を噛みしめながら、楽しさを求めていくのは悪くない。人生は心の持ちよう、捉え方で、これ程にないプレゼントとなり得る。

この人生の先に次のステージがある。生きる年月を重ねるほど、そう実感をする。自分がいま生きていること、その人生を俯瞰して見たとき、この世で何を獲得するべきか、つまりは人間性を磨くことや、徳を重ねること、それが出来なければまたやり直しだ。しかしそれすらも自由だ。どう生きるもこの人生で自由に選択して良い。

獲得出来なかったものを再び獲得するために、またこの世に舞い降りる。そう思うことで、人生の終わりが恐怖でなくなれば良い。生きることをとことん考えること。それがこの人生でやるべき一つではないだろうか。

この仕事を長くやってきた。家庭で生活出来ず、心細い思いをした少年たちの居場所を作り、もう一度人生に希望を持って欲しいと、ここまで走ってきた。人それぞれに生きる意味があり、それぞれの人生の道に生きた証を残していくのだろう。

あなたの生きた証は何か。この湘南つばさの家を応援して下さり、次代を担う少年たちの為に、少しでもお力を貸して頂くことが、生きた証になれば幸いです。

今後とも湘南つばさの家を宜しくお願ひ申し上げます。